



私の好きな言葉



守破離(しゅはり)

私が大学まで稽古を積んでいた剣道の教えで、「守破離」という言葉があります。

物事を修得するにおいて、まず正しい基本をしっかりと身につけ「守」、それを基に自らの工夫、応用を加えそれらを発展させ「破」、新しく独自のものを創造する「離」。私自身はこのように理解しております。

言葉のルーツに関しては、世阿弥の「風姿花伝」にある「序破急」や、千利休の「利休道歌」、江戸時代の茶匠、川上不白の「不白筆記」、「茶話集」など諸説ありますが、確かなことは能楽や茶道、武道などいずれも独自の境地を拓きその道を極めた偉大な先人たちに共通した教えであるということです。

囲碁や将棋の世界でも、「定石は非常に大切だが定石のみに囚われていては一流になれない」と聞いたことがあります。川上不白も「茶話集」にて「守は下手、破は上手、離は名人」と記しています。このことからわかるように「守破離」とは物事の修得の段階を示した教えであると同時に、修行の過程における自己の段階をも示す道しるべでもあります。ちなみに「守破離」は離で終わりではありません。「離守破」、「破離守」、「守破離」と常により高いステージへと己を導くべく精進を重ねていく限りない修行の道です。

私にとって学生時代に出会った「守破離」は今や外科医としての座右の銘にとどまらず自分自身を磨く終わりのない道、まさに人生そのものです。そして「守破離」の精神は、時代がどんなに変わろうとも伝統という名の DNA として次の世代へ連綿と受け継がれ、いつの時代も輝き続けてくれると信じています。

きはらしゅんいち
木原俊壺

脳神経・脊椎脊髄外科医

